

(一)れつだんばんはれつして (二)ちろ戦争はじまった (三)っさとにげるはろしや兵 (四)んでも残るは日本兵 (五)まんの兵をひきつれて (六)人残して皆ごろし (七)月八日の戦いに (八)っばれくんしょう胸につけ (九)ろぼときんの首をとり (一〇)六聯隊万万歳。

この終りのは日露戦争当時、かえ歌としてつくられたものである。これらの歌詞、調子には、日本の民族的特性会津の郷土性などが多く含まれているので、真の郷土人の生活をみつめ、解くために、ぜひ今のうちに研究しておかなければならないとも思う。既におそくなった観もある。

第八章 昔話と伝説

一、昔話と伝説の差異

夜の長い雪国の冬に、こたつの中で、「ほうれ、昔話」とねだられて、「昔、昔あるところになあ」と昔話を聞いた、あのなつかしい情景を思い起す老人は多かろうと思う。これをねだられて、語った記憶をもつ人はいくらかあるだろうかと思うと、少し淋しい、心細い気持がする。

昔の人は、こうして古い時代のことを語り伝え、それを人間の育ちの基本とも考えていたようでもある。学校がなかったから、学校にはいらなかったから、学問も、勉強もしなかったということではない。

ラジオ・テレビに明けられて、それを追い廻し、追い廻されている子供たち、新作まんがを手離せない子供た